

令和2年9月25日

南の風 364

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

347号から前号まで、日本女子U19～16代表の現状や課題について取り上げました。

この南の風で取り上げた日本女子アンダーカテゴリー代表の現状及び課題は、男子代表にも共通するものだという事も付け加えておきます。

『みんなの代表』を強くし、世界と伍していくという萩原氏をはじめスタッフの熱い気持ちが伝わってきました。

私たちミニバスや中学のカテゴリーの指導者は、もちろんトップで活躍する選手の強化育成のためだけに努めているわけではありません。各組織に所属する一人ひとりの選手が、正しい成長曲線を描けるように取り組んでいます。そうした中、トップカテゴリーの現状や課題を共有することは、全国の育成年代の指導者にとって、たいへん有意義なことだと思います。

ただ限られた練習時間の中ですから、それぞれの現場で指導内容のプライオリティを重視し、日頃の指導に当たらなければならないと感じました。

さて時を同じくして、ある指導書の中にJBA日本男子代表のテクニカルスタッフの方（ユーロ圏でコーチを務めた）が語った、『基本スキルの見直し』と言う文章を目にしました。

私が読んでいて「ストンと腑に落ちた」ものがあつたので紹介します。

『トリプルスレットポジションはもう古い？』です。

トリプルスレットは皆さんご承知のように、ドリブルができて、パスができて、シュートも打てるボールポジションです。腰の横あたりに構えるお馴染みのポジションです。パワーポジションとも呼ばれます。特に育成年代には基本中の基本と言われる構えです。

現在、ディフェンスの進化とともにこの『トリプルスレットポジション』が見直されています。以下が文章の抜粋です。

「まず、トリプルスレットという概念が、ユーロ圏ではないと感じる。ディフェンスの質が上がれば、腰の横あたりでボールを構えてもゴール下にパスはできないし、スキップパスも飛ばせない。頭の上に構えれば、すぐに、そして遠くにパスを出すことができる。」こう書くと、「では、ドリブルはどうするんだ？頭の上からだとすぐにドリブルもシュートもできないではないか」という考えがある。

ドリブルに関しては、「パスを出そうとしてディフェンスがそれを阻止しようと腕を伸ばした瞬間にチャンスが生まれる。」「シュートに関しては、トリプルスレットポジションからではもう遅い。ボールをもらう前に打てるか、打てないかの判断をしなければならない。ボールを受けた時にはすでにシュートを打てるかどうかの判断を終えていて、打てなければクローズアウトに対してドリブルで抜くのか、味方にパスするのかを判断しなければいけない。」

以上、抜粋です。

私は以前この南の風で、ボールを受けた時の基本は「シュートポジション」と書きました。ですから、この文章を見た時に『腑に落ちた』と思ったのです。続きは次号にします。